

一般質問

■市所有バス管理について

スクールバスの安全性は大丈夫か！

質問 中島小学校のスクールバスを購入してから15年経ち、安全性が担保されているとは思われないが、市として安全性が保たれていると判断する基準はどうかというのか。また、現在の市所有バスの車両管理状況はどうなっているのか。そして、新しい車両の購入をしていく時期がきて更新していく必要があると思うが、特定の年度で大きな予算が必要になることもある。その見通しはどうか。

答弁 車両の安全性については、新車登録から経過年数や走行距離を目安としているが、基準は特にならない。市所有バスは現在30台あり、そのうち12台は10年を経過して、平成15、16年に新規登録をしたものである。走行距離は7万9千キロから25万4千キロである。また、車両の管理は、30台のうち24台は市が直接管理をしており、残り6台は運行管理業務委託している先が責任を持って車両のメンテナンスを行っている。全車両とも法定に基づき3カ月ごとの定期点検や毎年の車検を行っており、不都合が生じた場合は、その都度点検や修理を行っている。毎日の運行前の点検も行っている。当面、安全性は確保されていると考えているが、更新が必要ときには、過疎債など有利な財源も確保しながら更新していきたい。



山添 和良 議員 (未来)



中島小スクールバス

- 【その他の質問項目】
- 平和展
- 学校エアコン設置
- 障害者雇用
- 図書館運営

一般質問

■大学生のふるさと回帰について



桂 徹男 議員 (灘会)



地元出身学生のふるさと回帰施策を！

質問 大学を卒業してから地元に戻って就職してもらうために、地元で在学している高校生のときから奨学金制度的なものを作り、卒業したら幹部候補生として七尾へ戻ってきてもらえるような制度ができないか。今後の七尾市の働き手の確保のために、大学生のふるさと回帰の必要性について、どう考えているのか。

答弁 学生は、選んだ仕事によって自ずと住むところが決まり、選択肢の広い地域での仕事を探すのが率直な気負ではないかと思う。企業にとっても七尾市出身の学生にこだわらず優秀な人材を選ぶ。こういったことを踏まえると、高校卒業生、大学新入生に対し、ひとまとめに奨学金を出すことは無理がある。市内のどの分野にどの程度の人材が不足しているのか調査する必要がある、商工会や商工会議所の方々と相談して、その分野をしっかり精査する必要がある。なお、小中学校では、地元企業の良さを感じてもらっている。市内では、事業承継に必要な若者を取ろうとローカルベンチャー事業なども展開しているが、しっかりと七尾に根付く人を探すということを課題に助成制度が出来るのかどうか、しっかりと研究課題に据えて取り組んでいく。

- 【その他の質問項目】
- 特定行為のできる看護師養成
- 学校応援サポートチーム設置の必要性

一般質問

■学校・通学路の安全対策について

よりよい教育環境にせよ！

質問 ①今夏は40度以上の暑さで、文科省では小中学校の普通教室で、エアコン設置を促進させる方針を出した。七尾市でも子どもたちの安全を守るためエアコン設置を早くお願いしたい。また、熱中症対策としての冷水機の設置と暑さ指数測定器の各教室の設置をお願いしたい。②大阪で起きたブロック塀事故により、七尾市においても通学路の安全対策をさらに強化する必要があるため、通学路のすべての道路で、ブロック塀安全対策や街灯の完全設置に取り組んでほしい。

答弁 ①エアコン設置については、国の財政支援を見極めながら、来年度から概ね3年程度で全小中学校に整備することを考えている。また、暑さ指数測定器の設置は、全小中学校で1カ所ずつあり、これ以上の設置は考えていない。冷水機の設置については、児童生徒に水筒を持参するようにお願いをし、足りなくなった場合は、水質検査で飲料に適した水道水を補給するよう指導しているため、冷水機の設置は考えていない。②通学路交通安全プログラムで関係機関と協議し、必要な個所には地域防犯の観点から町会に設置をお願いする。なお、町会が行う防犯灯の新設に対する費用補助で、既存防犯灯のLED化に対する補助制度を新設の場合にも適用できないか現在検討している。



伊藤 厚子 議員 (無党派)



学校の教室

- 【その他の質問項目】
- 集中豪雨被害対策
- 100万人訪問調査運動
- プログラミング教育の実施に向けて